

第5章 移動実態・ニーズの把握

本計画の策定にあたり、公共交通の利用状況や、公共交通利用に関する問題点、公共交通への要望等を把握するため、「住民アンケート」、「高校生アンケート」、「自治会長グループインタビュー」、「事業者アンケート調査」、「バス利用者アンケート調査」を実施しました。

また、平成27年には総合戦略策定時にアンケート調査を行っており、ここではこれらの調査結果をもとに築上町における移動実態やニーズを把握しました。

表 5-1. 網計画策定のために実施した調査の概要

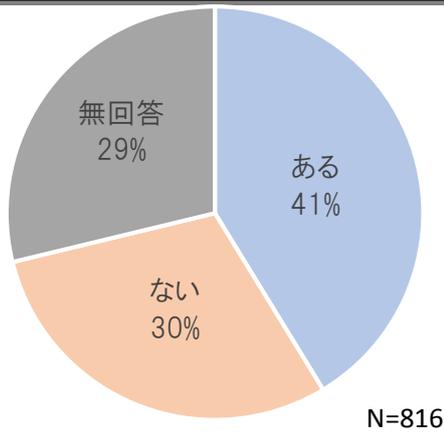
調査名	項目	内容
住民アンケート	調査実施期間	平成30年10月
	調査方法	郵送配布・郵送回収
	調査対象	町内在住の18歳以上
	配布票数	各地区に300票、計2,100票を配布
	回収票数	816票
	回収率	38.8%
	主な把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 普段の移動状況 ● 移動における問題点 ● 公共交通への評価・要望 ● 将来の不安 等
高校生アンケート	調査実施期間	平成30年10月～11月
	調査方法	郵送配布・郵送回収
	調査対象	町内在住の高校生（青豊高校、築上西高校、京都高校、育徳館高校、東九州龍谷高校、苅田工業高校の6校）
	回収票数	328票
	主な把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 通学状況 ● 通学や普段の移動での問題点 ● 公共交通への要望 等
自治会長グループインタビュー	調査実施期間	平成30年11月
	調査方法	地区毎に集まったの意見交換
	調査対象	椎田、八津田、葛城、西角田・小原、上城井、下城井、築城の7エリア
	主な把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 主な買い物、通院先 ● 公共交通に関する問題点 ● 公共交通への要望 等
事業者アンケート	調査実施期間	平成30年10月
	調査方法	FAXによる送付・回収、口頭での確認
	調査対象	太陽交通（株）
バス利用者アンケート	調査実施期間	平成30年10月～12月
	調査方法	九州産業大学稲永准教授が開発したシステムを活用して実施
	調査対象	寒田線及びコミュニティバス6路線の利用者
	把握項目	年代、利用頻度、利用目的、外出先

※次ページ以降の各種アンケートの集計結果は、四捨五入の関係で合計が100%とならない場合があります。

1 移動実態

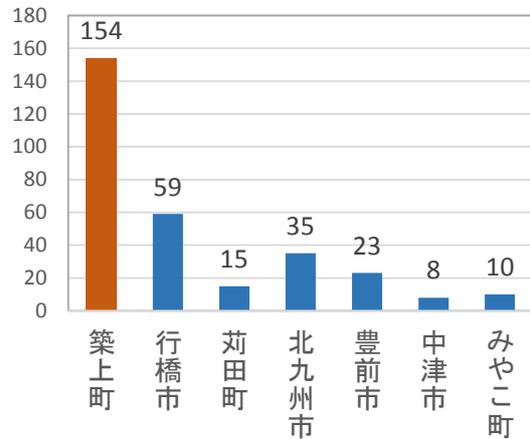
1-1 通勤

- 住民アンケートの回答者の4割が通勤しています。
- 通勤先は、町内が154票と通勤者337票の46%を占めています。
- 町外では、行橋市、北九州市への通勤が多くなっています。
- 豊前市への通勤は、豊前市に隣接している「西角田・小原エリア」でやや多くなっています。



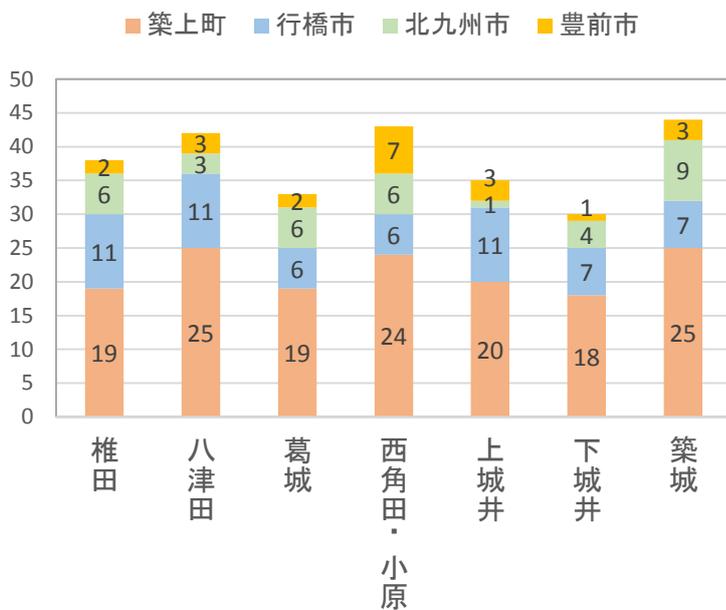
出典:住民アンケート

図 5-1.通勤の有無



出典:H25 住民アンケート

図 5-2.通勤先



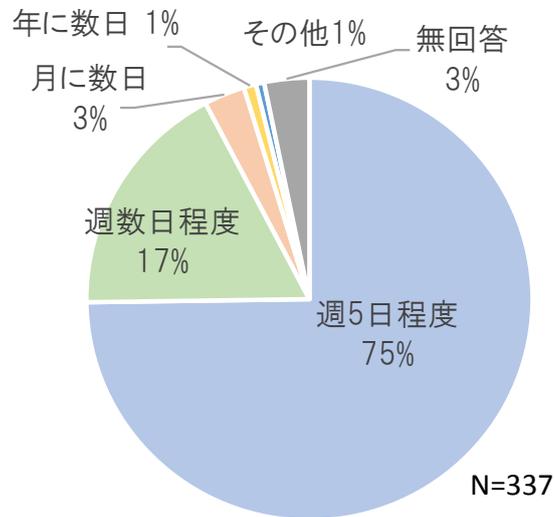
【自治会長グループインタビューでの意見】
●町外では行橋市、北九州市、豊前市への通勤が多い。

※グラフ以外にも居住エリア不明の通勤者が築上町4票、豊前市で2票ある

出典:住民アンケート

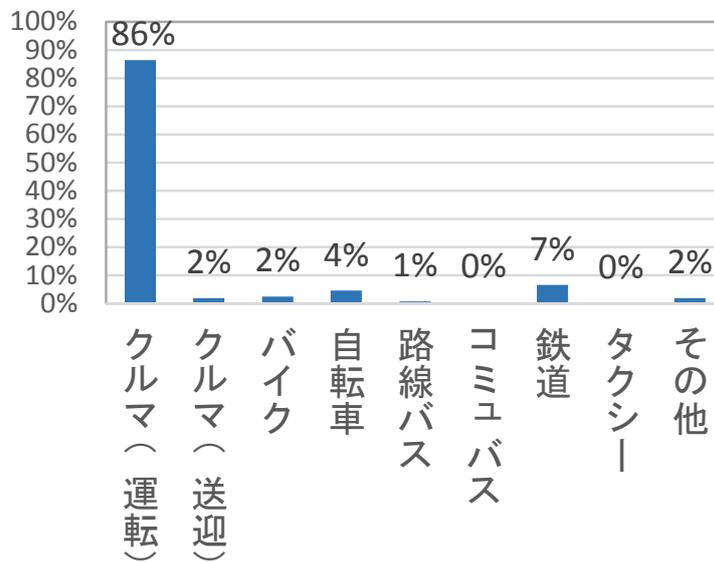
図 5-3.エリア別の通勤先

- 通勤の頻度は「週5日程度」が75%と大半を占めています。
- 通勤の交通手段は「クルマ（運転）」が86%と9割近くを占め、その他では「鉄道」が7%、「自転車」が4%を占めています。



出典:住民アンケート

図 5-4.通勤の頻度

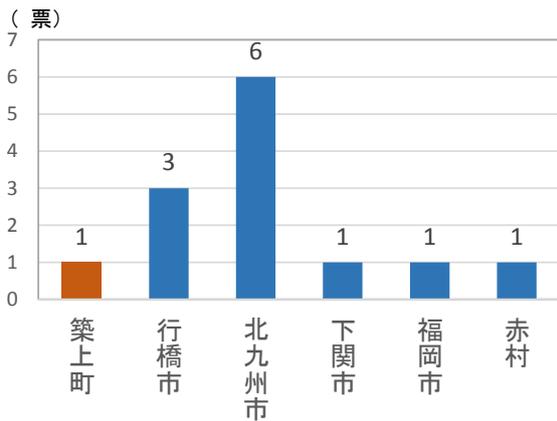


出典:住民アンケート

図 5-5.通勤手段(複数回答)

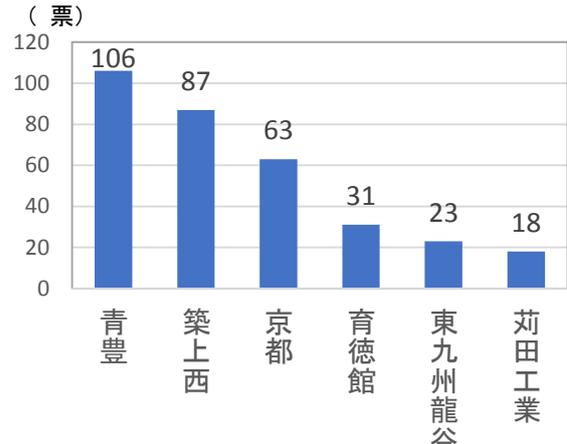
1-2 通学

- 住民アンケートで把握した18歳以上の通学先(大学、専門学校等)は、北九州市、行橋市が多くなっています。
- 高校生アンケートによると、豊前市の青豊高校への通学生が106票ともっとも多く、同校に近い「椎田エリア」からの生徒が多くなっています。
- 一方、行橋市の京都高校へは、同校に近い「築城エリア」からの生徒が多くなっており、自宅に近い学校に進学している状況がうかがえます。



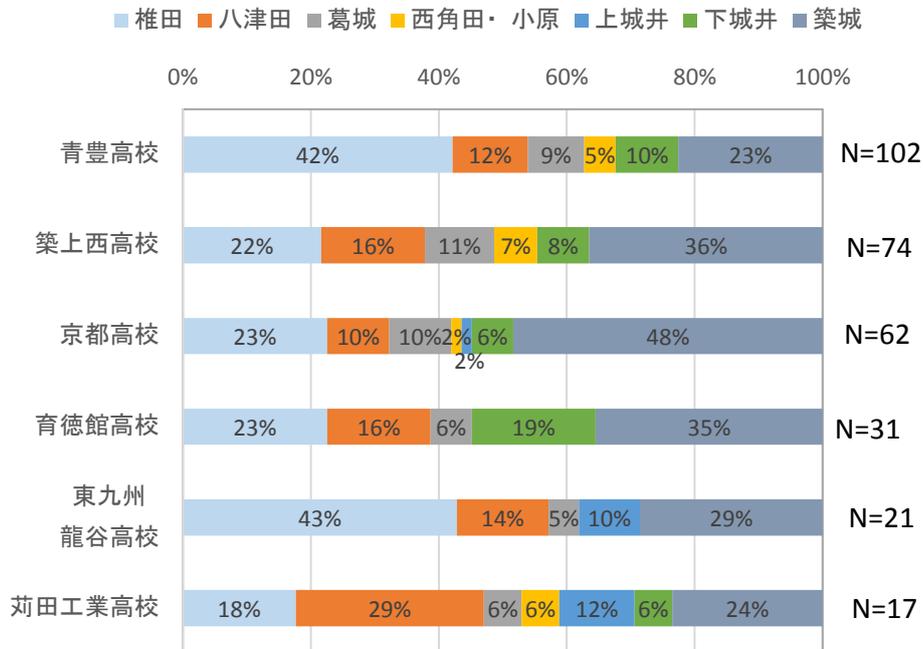
出典:住民アンケート

図 5-6.通学先(18歳以上)



出典:高校生アンケート

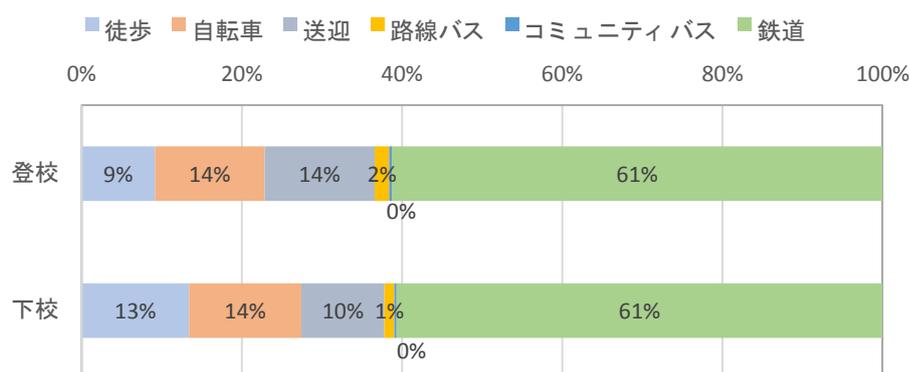
図 5-7.高校生の通学先



出典:高校生アンケート

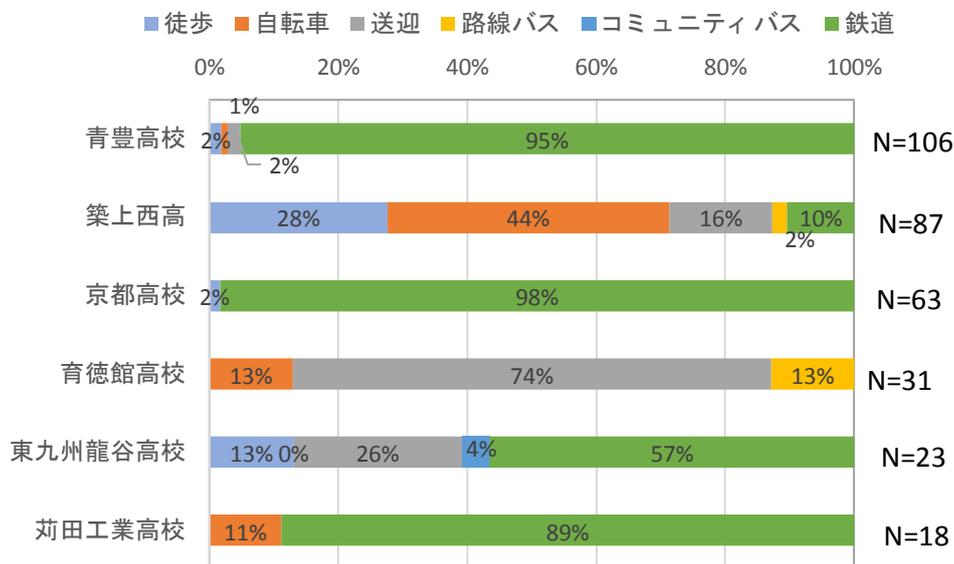
図 5-8.高校別の居住地区の構成

- 高校生アンケートによると、登下校の約6割に「鉄道」が利用されており、その他では、「自転車」、「送迎」、「徒歩」での登下校がみられますが、「路線バス」の利用は1~2%と非常に少ない状況です。
- 登校時は「送迎」が14%、「徒歩」が9%を占めていますが、下校時は「送迎」が10%、「徒歩」が13%となっており、送迎で登校し、徒歩で下校する生徒もいます。
- 高校別では、交通手段に大きな違いがみられ「青豊高校」、「京都高校」、「苅田工業高校」はほぼ「鉄道」利用となっていますが、「育徳館高校」は74%が「送迎」、地元の「築上西高校」は44%が「自転車」、28%が「徒歩」となっています。



出典：高校生アンケート

図 5-9.登下校時の交通手段



出典：高校生アンケート

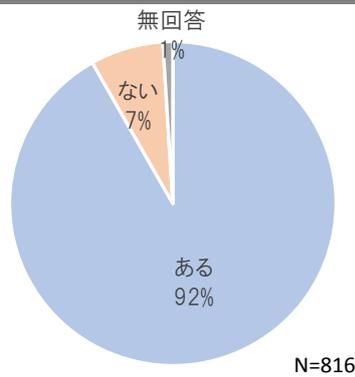
図 5-10.高校別の登校時の交通手段

【自治会長グループインタビューでの意見】

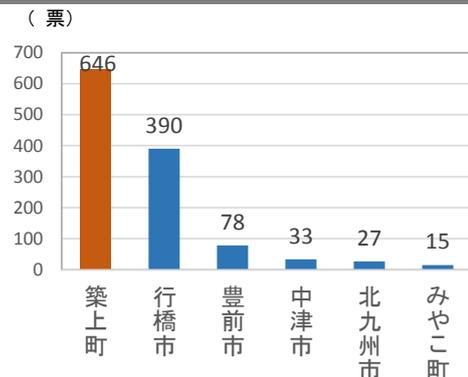
- 通学では鉄道利用がみられる。

1-3 買い物

- 約9割の方が買い物で外出しています。
- 外出先としては、築上町が646票と多く、次いで行橋市が390票と多くなっています。
- 地区別では、ルミエール等の店舗が立地している「八津田エリア」は町内での買い物が65%と多く、「上城井エリア」、「下城井エリア」、「築城エリア」は行橋市への買い物が40%前後を占めています。
- 豊前市への買い物は「西角田・小原エリア」では25%と割合が高くなっています。
- 自治会長グループインタビューでは、買い物先としては「ルミエール」が圧倒的に多く、行橋市では「ゆめタウン」での買い物が多という意見が寄せられています。



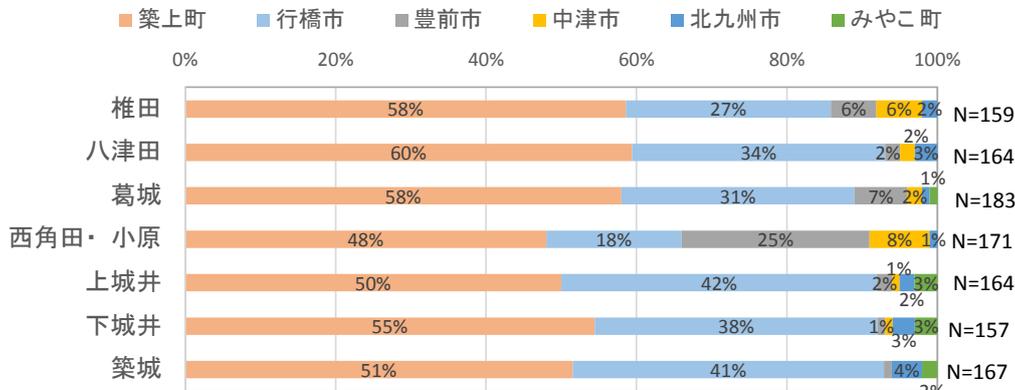
出典：住民アンケート



出典：住民アンケート

図 5-11. 買い物の有無

図 5-12. 買い物先の市町村(複数回答)



出典：住民アンケート

図 5-13. エリア別の買い物先の市町村(複数回答)

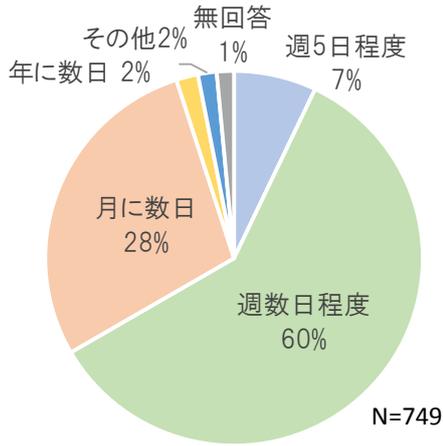
【自治会長グループインタビューでの意見】

- 町内各地区ともルミエールでの買い物が圧倒的に多い。
- 町内のその他では、JA、コスモス、ナフコ、メタセの杜、セブンイレブン等。
- 市外では行橋市のゆめタウンに買い物に行く。
- 行商が回ってくるところもある。(椎田、葛城、西角田・小原エリア)

【事業者アンケートでの意見】

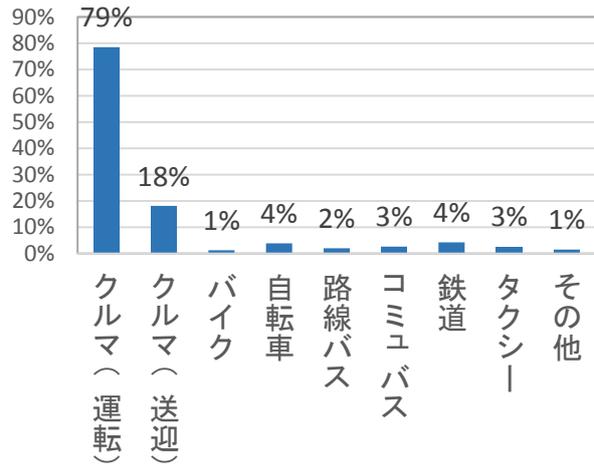
- 寒田線から築城駅で乗り継いでルミエールに買い物に行くパターンがみられる。
- ルミエールへの買い物目的でのタクシー利用が多いと感じる。

- 買い物の頻度は「週数日程度」が60%と最も多く、次いで「月に数日」が28%と多くなっています。
- 買い物時の交通手段は「クルマ（運転）」が79%、「クルマ（送迎）」が18%となっており、買い物での移動にはほぼクルマが利用されています。
- 「路線バス」、「コミュニティバス」、「鉄道」、「タクシー」の利用率は2~4%と買い物での利用率は低くなっています。



出典：住民アンケート

図 5-14. 買い物の頻度



出典：住民アンケート

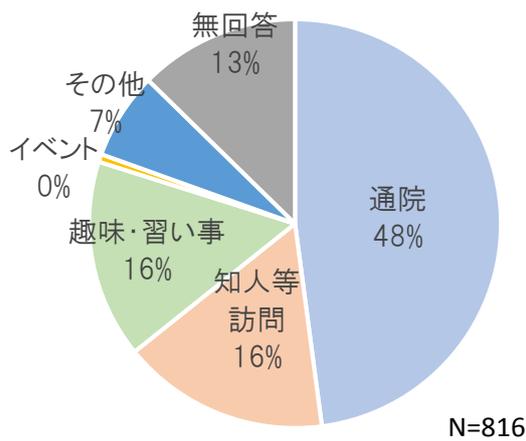
図 5-15. 買い物時の交通手段（複数回答）

【自治会長グループインタビューでの意見】

- ルミエールへの買い物が多いが、近隣の八津田エリアや椎田エリアでは、徒歩や自転車で買い物に出かけている人もいます。帰りは荷物があるので、タクシーを利用している方もいるようだ。
- 行橋のゆめタウンは、娘や孫が帰省した際に、年に数回連れて行ってもらっている。

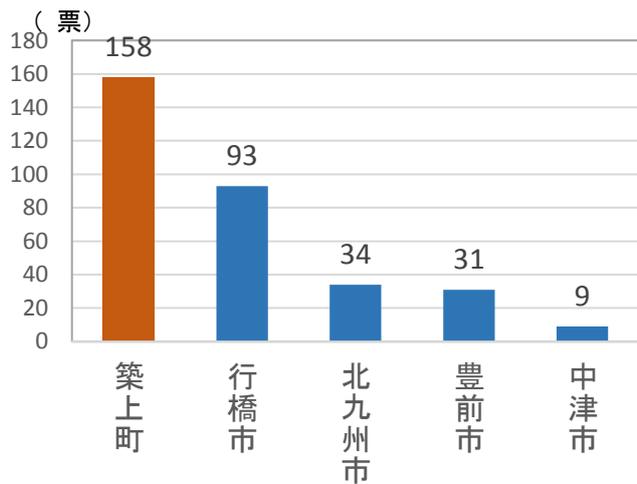
1-4 通院

- その他の外出先目的としては、「通院」が48%と約半数を占め、「知人等訪問」、「趣味・習い事」が16%が続いています。
- 通院先は築上町が158票と多く、その他では行橋市が93票と多くなっています。
- 自治会長グループヒアリングでは、町内の病院で対応が難しい場合は、行橋市の病院に通院しているといった意見が寄せられています。



出典：住民アンケート

図 5-16.その他の外出目的



出典：住民アンケート

図 5-17.通院先の市町村 (複数回答)

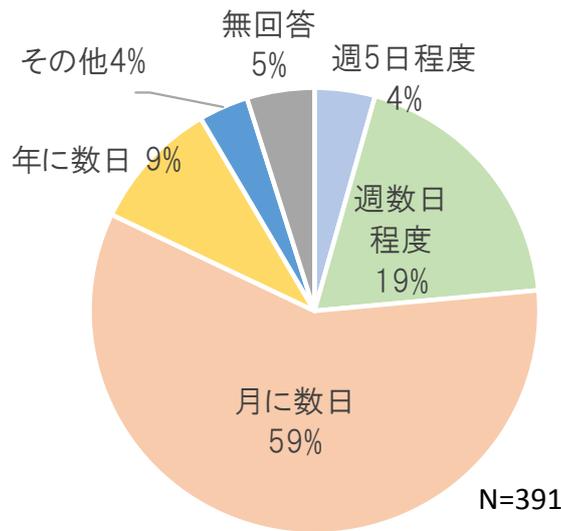
【自治会長グループインタビューでの意見】

- 町内では、古賀整形外科、うえだ内科クリニック、宮部病院、あないクリニックなどが多い。
- 町内の病院で対応が難しい場合に、町外に通院しており、行橋市の新行橋病院や、新田原聖母病院などに通院している。
- 通院や、買い物以外の外出先としては、築上町役場や、銀行、JA が多い。

【事業者アンケートでの意見】

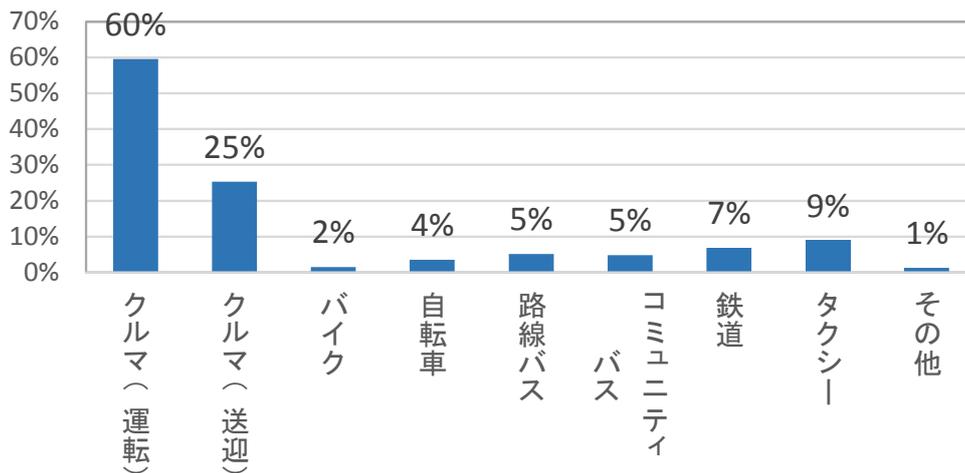
- 寒田線で、片山医院に通院する利用者が多い。
- 通院目的でのタクシー利用が多いと感じる。

- 通院の頻度は「月に数回」が59%と最も多く、「週数日程度」の19%、「週5日程度」の4%とあわせて82%の方が月に1回以上の頻度で通院しています。
- 通院時の交通手段は、「クルマ（運転）」が60%と最も高いですが、通勤の86%、買い物の79%に比べ割合が低く、一方で「クルマ（送迎）」は25%（通勤2%、買い物18%）と高くなっており、通勤や買い物に比べ、自分で運転する方の割合が低くなっています。
- 一方で、「タクシー」が9%、「鉄道」が7%、「路線バス」、「コミュニティバス」が5%と公共交通の利用割合は、通勤や買い物に比べ高くなっています。



出典：住民アンケート

図 5-18.通院の頻度



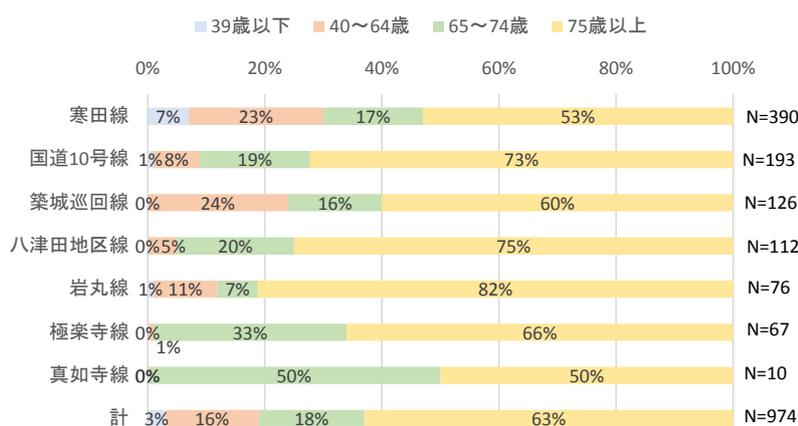
出典：住民アンケート

図 5-19.通院時の交通手段（複数回答）

1-5 バスの利用状況

(1)年代

- 各路線とも、「75歳以上」の割合が高く、全体の63%を占めています。
- 特に、岩丸線は82%と8割以上を「75歳以上」の方が占めています。
- 「39歳以下」の利用は、全体で3%とわずかであり、64歳以下の高齢者以外の利用割合は、全体で19%となっています。
- 高齢者以外の利用は、寒田線が30%、築城巡回線が24%とやや多くなっています。

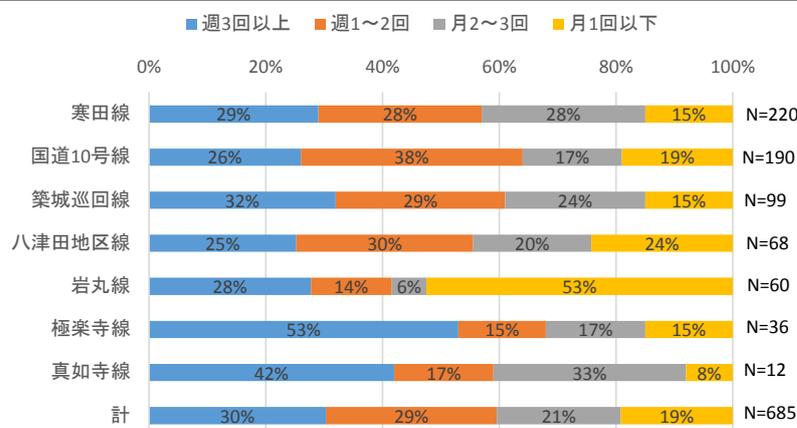


出典：バス利用者アンケート

図 5-20.路線別の利用者の年代

(2)利用頻度

- 全体では、「週3回以上」が30%、「週1~2回」が29%と、週に1回以上利用している方が59%と6割近くを占めており、特定の利用者に利用が集中している状況がうかがえます。
- 特に、極楽寺線は「週3回以上」の利用が53%と半数を占めています。
- 一方、岩丸線は、「週3回以上」が28%を占めるものの、「月に1回以下」が53%と過半数を占めており、他の路線に比べると色々な方に利用されています。

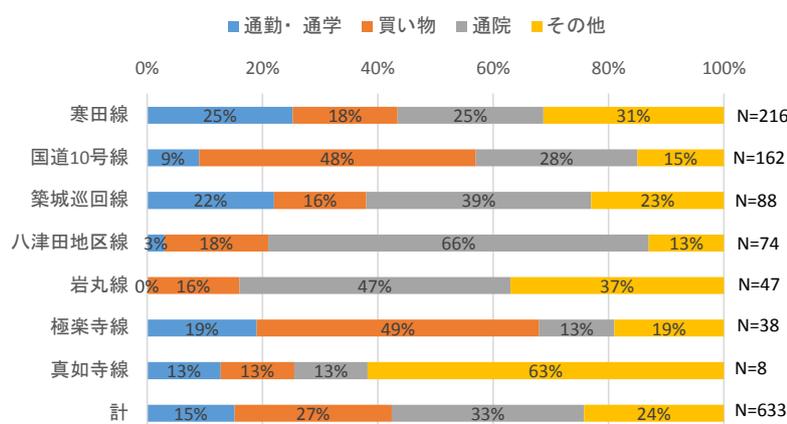


出典：バス利用者アンケート

図 5-21.路線別の利用頻度

(3) 利用目的

- 全体では、「通院」が33%、と最も多く、次いで「買い物」が27%と多くなっています。
- 「通院」目的は、八津田地区線が66%と非常に高く、岩丸線でも47%と高い一方で、極楽寺線、真如寺線は13%と「通院」目的での利用が少なくなっています。
- 「買い物」目的は極楽寺線が49%、国道10号線が48%と半数近くを占め、一方、真如寺線は13%と少なくなっています。
- 「通勤・通学」での利用は全体では15%を占め、寒田線が25%、築城巡回線が22%と比較的多くなっています。
- 真如寺線は、「その他」目的での利用が63%と6割以上を占めています。

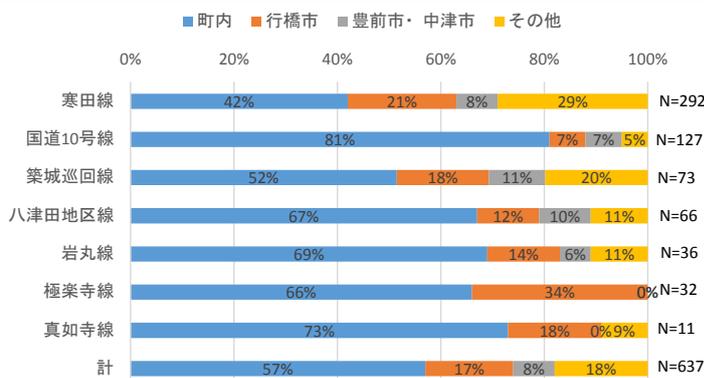


出典:バス利用者アンケート

図 5-22.路線別の利用目的

(4) 外出先

- 全体では、「町内」が57%と最も多く、各路線とも「町内」への外出が最も多くなっています。
- 特に、国道10号線は81%と町内での外出に多く利用されています。
- 町外では、「行橋市」への外出が全体で17%と多く、特に極楽寺線では34%と高く、1/3の方が行橋市への外出目的で利用しています。
- 寒田線は、「町内」への外出が42%と最も低く、「行橋市」への外出が21%、「その他」が29%と町外への外出を目的に約半数の方が利用しています。



出典:バス利用者アンケート

図 5-23.路線別の外出先

(5) 路線毎の利用状況のまとめ

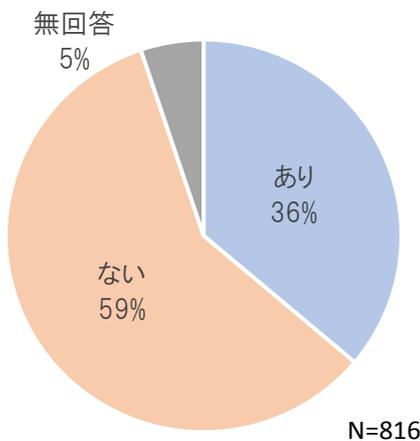
- 「寒田線」、「築城巡回線」は他路線に比べると、町外への通勤・通学での利用が多くなっています。
- 「国道10号線」は町内での買物利用が多くなっています。
- 「八津田地区線」は病院目的での利用が非常に多くなっています。
- 「岩丸線」は75歳以上の高齢者の病院目的での利用が多くなっています。
- 「極楽寺線」は特定の利用者の行橋市への買物目的での利用が多くなっています。
- 「真如寺線」はその他の目的での利用が多く、病院、買物ではあまりされていません。

表 5-2. 路線毎の利用状況のまとめ

路線名	調査結果
寒田線	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者以外の利用が30%と比較的多い。 ● 「通勤・通学」目的での利用が25%と比較的多い。 ● 「行橋市」への外出が21%、「その他」への外出が29%と町外への外出目的での利用が多い。
国道10号線	<ul style="list-style-type: none"> ● 「買物」目的での利用が48%と多い。 ● 「町内」での外出が81%と非常に多い。
築城巡回線	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者以外の利用が24%と比較的多い。 ● 「通勤・通学」目的での利用が22%と比較的多い。
八津田地区線	<ul style="list-style-type: none"> ● 「病院」目的での利用が66%と非常に高い。
岩丸線	<ul style="list-style-type: none"> ● 「75歳以上」が82%と非常に多い。 ● 「月に1回以下」の利用が53%と過半数を占める。 ● 「病院」目的での利用が47%と高い。
極楽寺線	<ul style="list-style-type: none"> ● 「週3回以上」の利用が53%と多い。 ● 「買物」目的での利用が49%と多く、「病院」目的での利用が少ない。 ● 34%が「行橋市」への外出に利用している。
真如寺線	<ul style="list-style-type: none"> ● 「その他」目的での利用が63%と多く、「病院」目的、「買物」目的での利用が少ない。

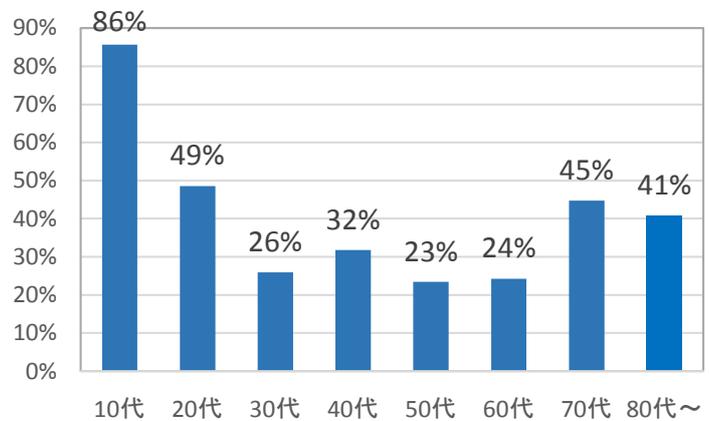
1-6 送迎

- 送迎してもらっている方は全体で 36%おり、年代別では「10代」が 86%と非常に高くなっています。
- 「30代」～「60代」は送迎してもらう方の割合は 23～32%ですが、「70代」を超えると、送迎してもらう割合は 4割を超えます。
- 送迎してくれる方は「家族」が 92%と大半を占めています。
- 駅までの送迎状況を見てみると、「築城駅」まで送迎してもらっている方の割合が 35%と高く、「椎田駅」は 22%となっています。
- また、日中の JR の運行本数が多い行橋市内の「行橋駅」は 11%、「新田原駅」は 4%となっています。



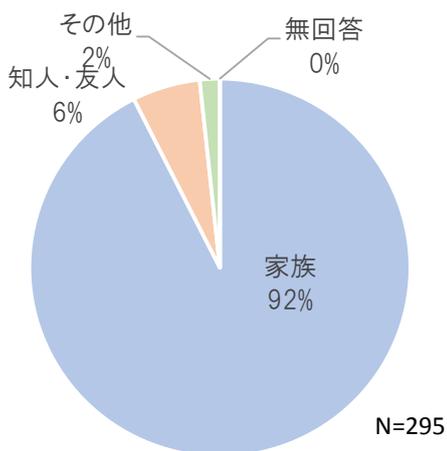
出典：住民アンケート

図 5-24.送迎での移動の有無



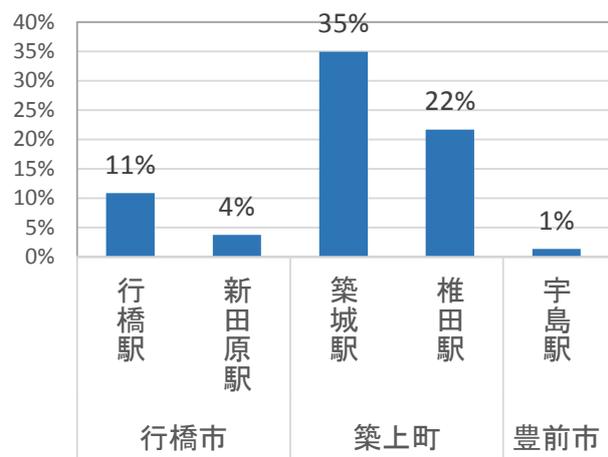
出典：住民アンケート

図 5-25.年代別の送迎による移動がある方の割合



出典：住民アンケート

図 5-26.送迎してくれる方の属性



出典：住民アンケート

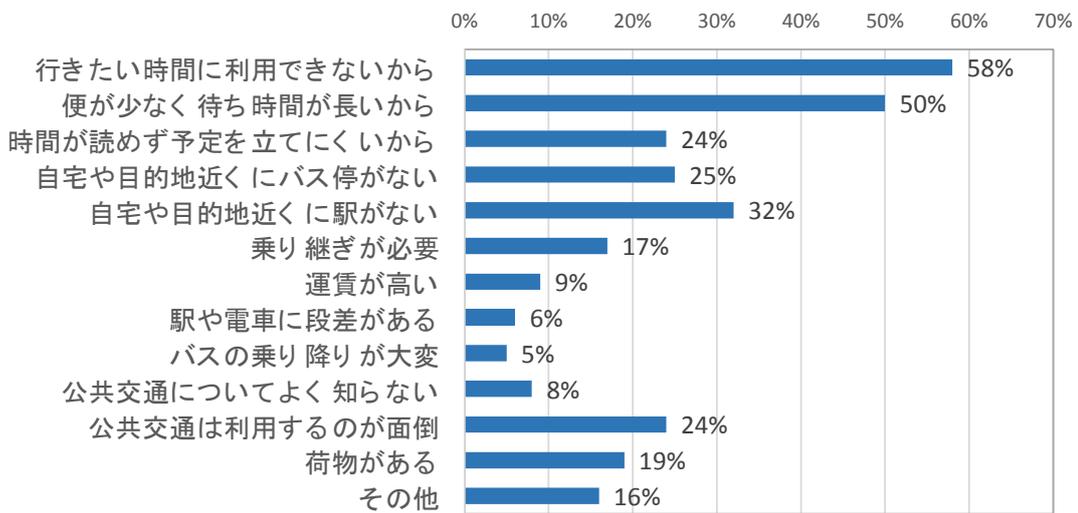
図 5-27.駅別の送迎先として利用している割合

(複数回答)

2 公共交通の評価・問題点

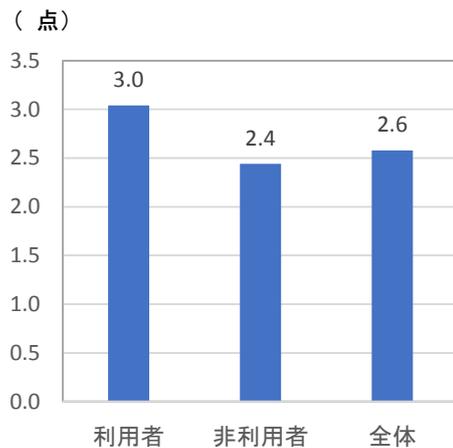
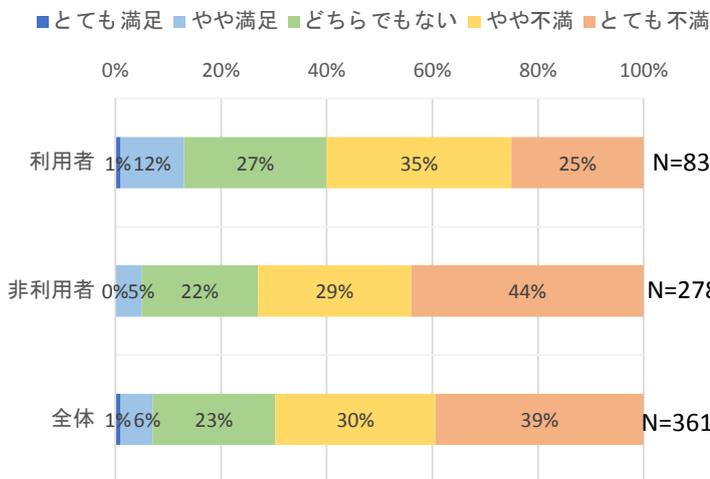
2-1 概要

- 公共交通を利用しない理由としては「行きたい時間に利用できないから」が58%、「便が少なく待ち時間が長いから」が50%と運行頻度に関する項目が多くあげられています。
- その他では「自宅や目的地近くに駅がない」が32%と多くなっています。
- 築上町の公共交通全体に対する評価は、全体で「とても満足」が1%、「やや満足」が6%と満足と回答した方の割合がわずか7%と低く、特に公共交通非利用者の満足度が低くなっています。
- 「とても満足」を5点、「とても不満」を1点として平均点を求めると、評価は全体で2.6点となり、公共交通利用者の3.0点に対し、非利用者2.4点と評価が低くなっています。



出典：住民アンケート

図 5-28.公共交通を利用しない理由(複数回答)

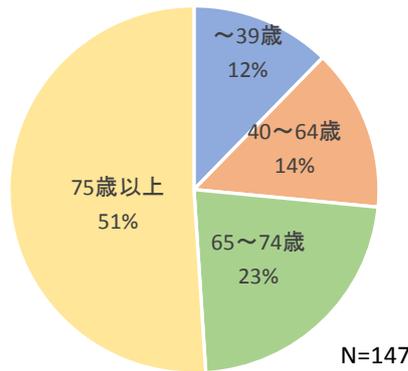


出典：住民アンケート

図 5-29.公共交通利用者・非利用者別の公共交通全体の評価

2-2 交通弱者の外出

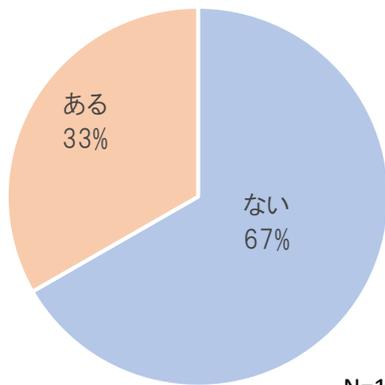
- 運転免許を持っていない交通弱者の年齢構成をみると、51%を「75歳以上」の高齢者が占めています。
- 運転免許を持っていない交通弱者の内、33%の方が、移動手段がないために外出をあきらめたり、外出回数を減らしている状況があります。
- 交通弱者の方は、家族が休みの日でなければ外出できない、免許証返納後の買い物、通院が不便になっているなどの意見が住民アンケート、自治会長グループインタビューであげられています。



N=147

出典：住民アンケート

5-30.交通弱者の年齢構成



N=147

出典：住民アンケート

【外出をあきらめている状況】

- 家族が休みの日しか外出できない。
- 町内で就職しようとするクルマが必要
- 乗り継ぎが大変で行きたいところに行けない。
- 小倉までの足がない。運賃が高く、1時間に1本では使いづらい。等

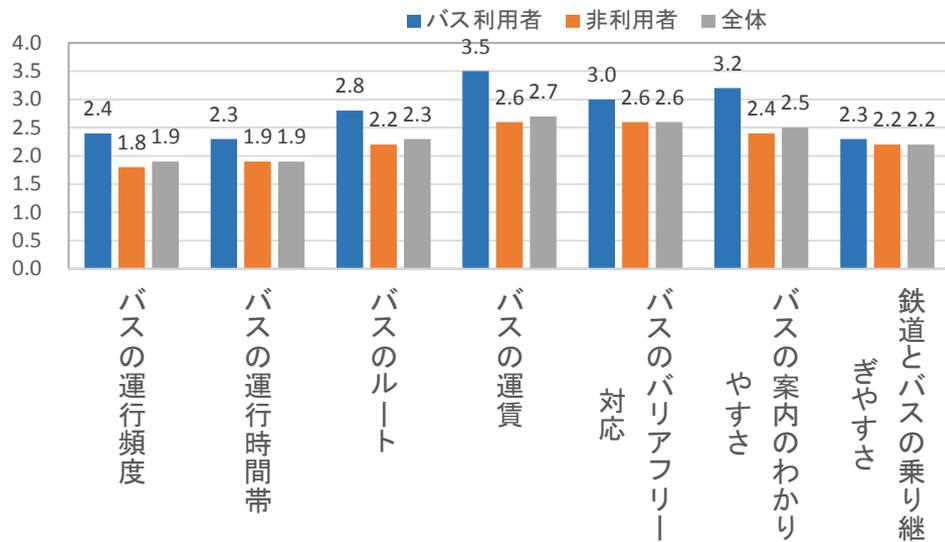
図 5-31.交通弱者の外出をあきらめている状況の有無

【自治会長グループインタビューでの意見】

- クルマを持っていない、免許証を返納した世帯は、買い物、通院が不便になっている。
- スクールバスを利用できない中学生が登下校に困っている。
- 豊前・中津方面が生活圏になるが、移動手段がない。(西角田・小原エリア)

2-3 コミュニティバス・路線バス

- コミュニティバス・路線バスの評価は、バス利用者と非利用者とで評価に差があり、すべての項目でバス利用者の評価が、非利用者の評価を上回っています。
- 特に、バス利用者は運賃に対する評価が高く、非利用者の 2.6 点に対し、3.5 点と全 7 項目で最も高い評価となっています。
- 「バス案内のわかりやすさ」に対するバス利用者の評価も 3.2 点と高くなっています。
- 一方、「バスの運行頻度」、「バスの運行時間帯」に対しては、バス利用者、非利用者ともに評価が低くなっています。
- 自治会長グループインタビューでは、高齢化でバス停までの移動が大変や、路線バスが運行されている寒田地区の運賃負担が大きい、バスの待ち時間が長い、バスと鉄道のダイヤがあっていないなどの意見があげられました。



出典：住民アンケート

図 5-32.バス利用者と非利用者のバスに対する評価

【自治会長グループインタビューでの意見】

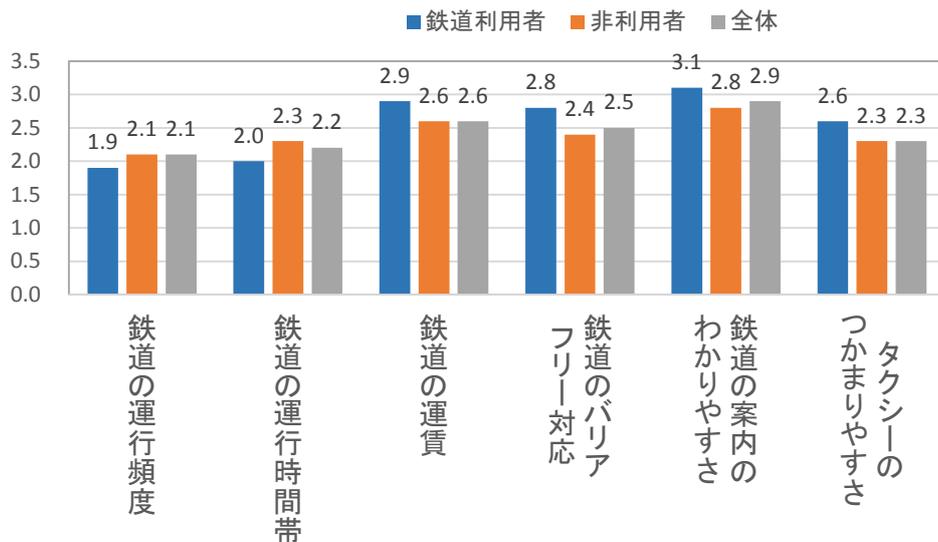
- 高齢化でバス停まで歩いて行くのが大変になっている。
- 寒田地区は、バス運賃の負担が片道 460 円、往復 920 円と大きい。
(上城井エリア)
- バスの待ち時間が長い。
- バスと鉄道のダイヤがあっていない。等

【事業者アンケートでの意見】

- JR との乗り継ぎ時間が短く、利用者から時間変更の要望を受けている。

2-4 鉄道・タクシー

- 平成30年3月のダイヤ改正で減便となったこともあり、「鉄道の運行頻度」は、鉄道利用者、非利用者ともに評価が1.9～2.1点と低くなっています。
- 自治会長グループインタビューでは、減便により不便を感じている、駅の階段が登れないため高齢者は鉄道を利用できない、といった意見があげられています。
- 「タクシーのつかまえやすさ」の評価が2.8点と低く、自治会長グループインタビューでも特に夜がつかまりにくくなっているという回答が寄せられています。



出典：住民アンケート

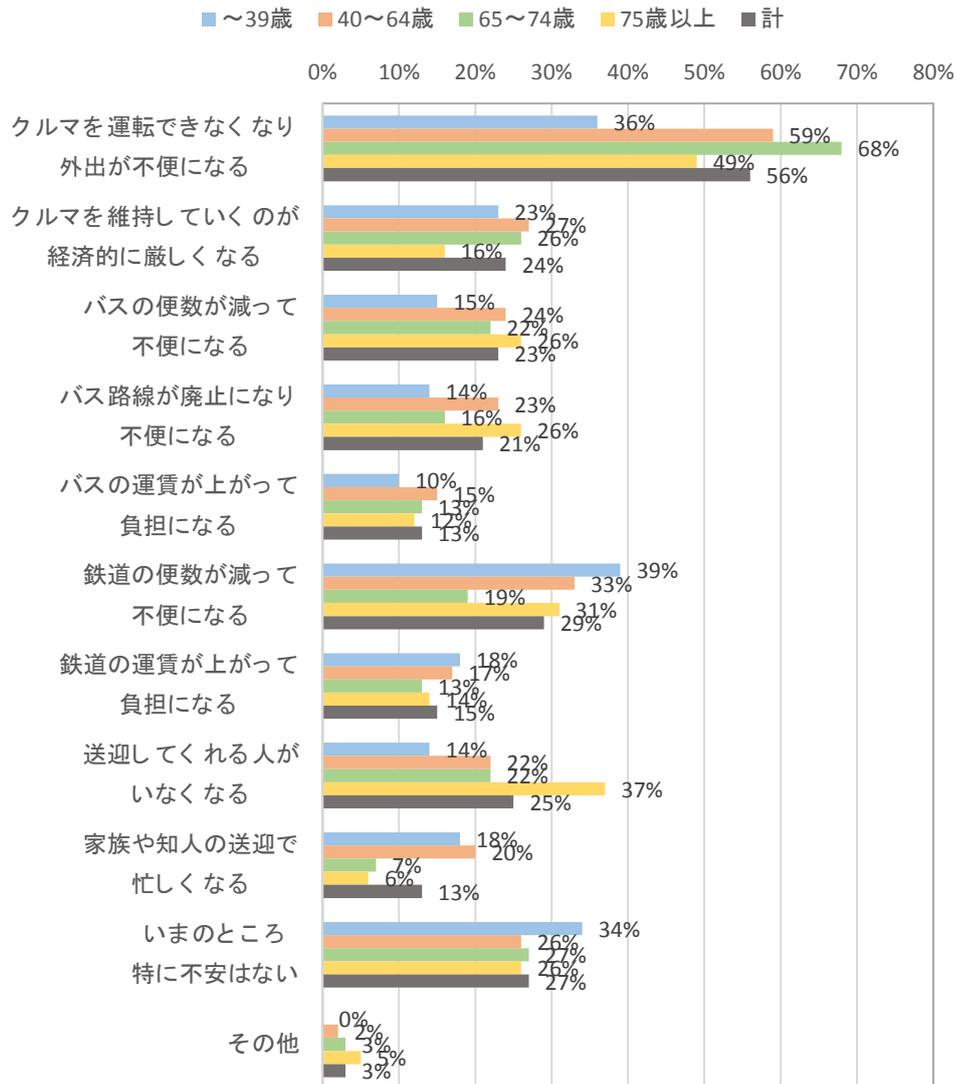
図 5-33.鉄道利用者と非利用者の鉄道・タクシーに対する評価

【自治会長グループインタビューでの意見】

- 鉄道の減便で非常に不便を感じている。
- 駅の階段が昇れないため、高齢者は鉄道を利用できない。
- タクシーがつかまえにくくなっている。特に夜。

2-5 将来の不安

- 将来に対する不安としては「クルマを運転できなくなり外出が不便になる」が56%と最も多く、自治会長グループインタビューでも同様の意見があげられています。
- 「鉄道の便数が減って不便になる」は若い世代の方が不安に感じる方が多く、「送迎してくれる人がいなくなる」は年代が高くなるほど不安に感じる方が多く、75歳以上では37%の方が不安に感じています。



出典：住民アンケート

図 5-34.年代別の将来への不安(複数回答)

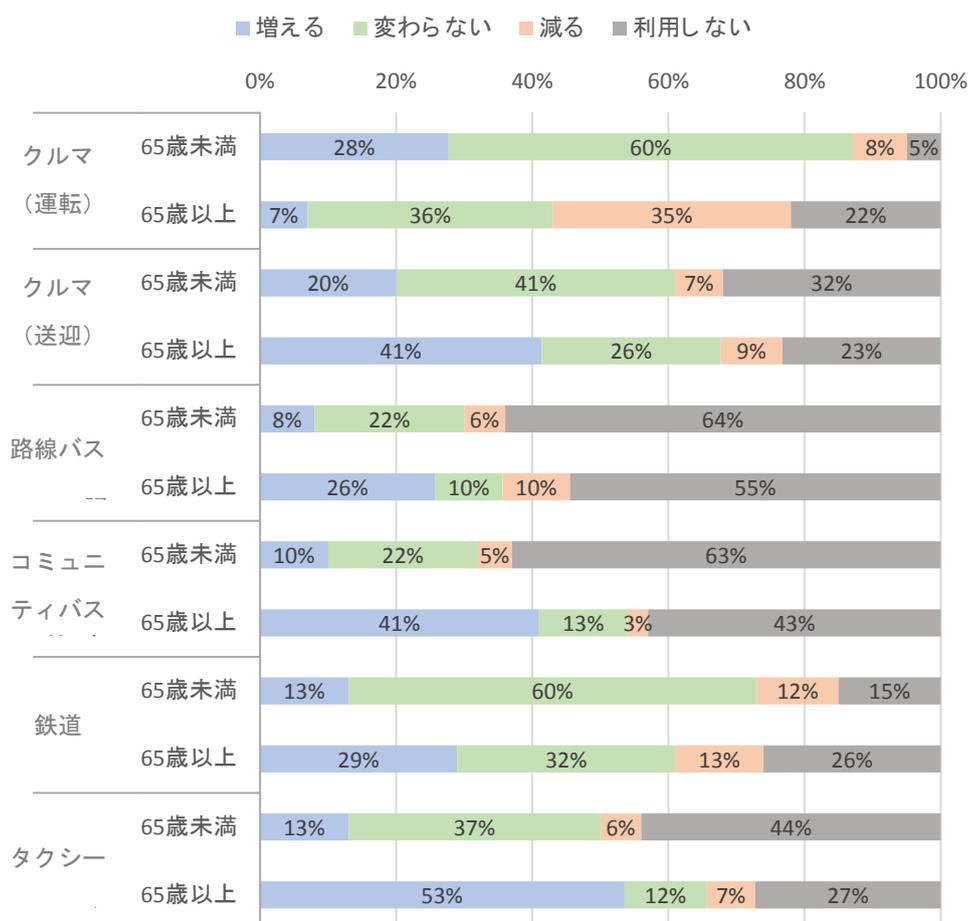
【自治会長グループインタビューでの意見】

- クルマを運転できなくなった将来に不安を感じている人は多い。

3 公共交通への要望等

3-1 将来の交通手段の利用意向

- 65歳未満、以上で将来の交通機関の利用意向をみてみると、「路線バス」等の公共交通の利用意向は、65歳未満よりも65歳以上が高く、特に「タクシー」は「増える」の回答が53%と過半数を占めています。
- また、65歳以上は「クルマ（送迎）」、「コミュニティバス」の利用が「増える」の割合も41%と高くなっています。
- 「クルマ（運転）」は、65歳未満は「増える」が28%と「減る」の8%を20ポイント上回っていますが、65歳以上になると反対に、「減る」が35%と「増える」の7%を28ポイントも上回っています。
- 年齢が高くなるにつれ、「クルマ（運転）」の利用意向が低下し、「コミュニティバス」、「タクシー」などの公共交通や、「クルマ（送迎）」の利用意向が高くなります。

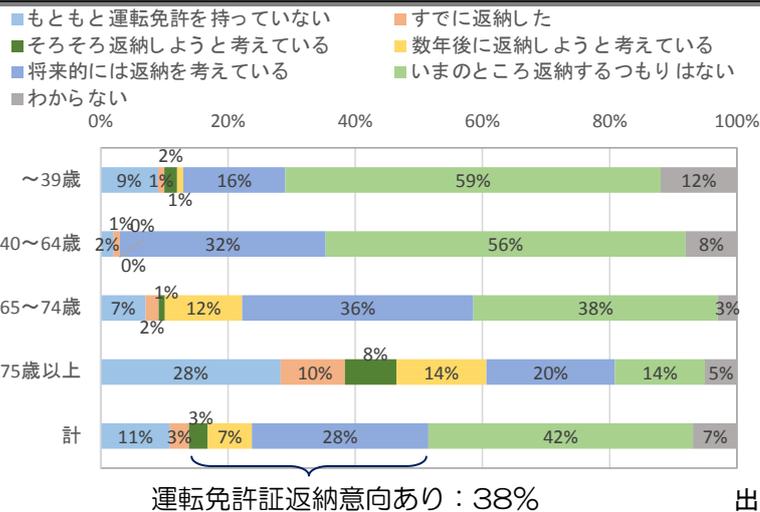


出典：住民アンケート

図 5-35.年代別の将来における公共交通の利用意向

3-2 運転免許証返納への意向

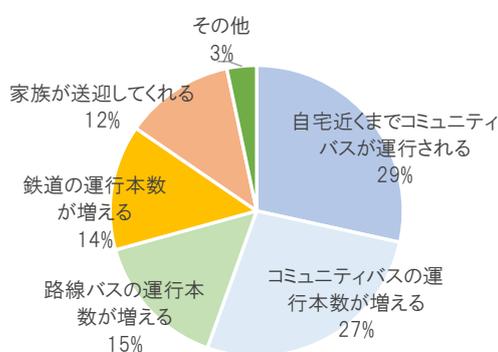
- 運転免許証返納について、「いまのところ返納するつもりはない」が全体の42%ともっとも多く、「65～74歳」でも38%の方がそのように回答しています。
- 「将来的には返納を考えている」と回答した方の割合は、「40～64歳」が32%、「65～74歳」が36%と多くなり、「75歳以上」になると「すでに返納した」が10%と、実際に返納する方が増えてきます。
- 「そろそろ返納しようと考えている」、「数年後に返納しようと考えている」、「将来的には返納を考えている」をあわせて、全体では38%の方が運転免許証の返納を考えています。
- 運転免許証返納のための条件としては「自宅近くまでコミュニティバスが運行される」が29%、「コミュニティバスの運行本数が増える」27%とコミュニティバスの充実が求められています。
- 運転免許証返納後に受けたい特典として、「タクシーの運賃割引」が78%ともっとも高く、次いで「バスの運賃割引」を50%の方があげており、運賃割引に対するニーズが高くなっています。



運転免許証返納意向あり：38%

出典：住民アンケート

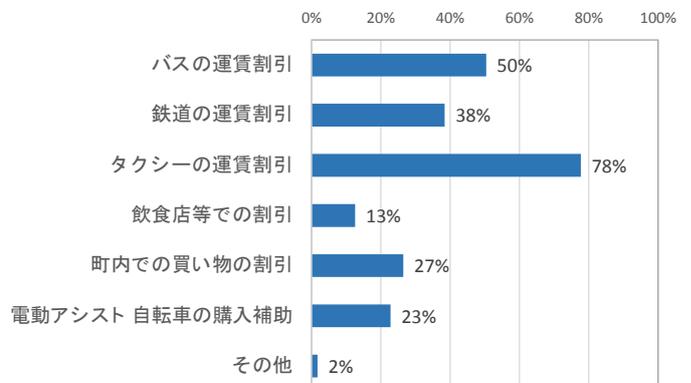
図 5-36.運転免許証返納の意向



N=645

出典：住民アンケート

図 5-37.運転免許証返納のための条件



出典：住民アンケート

図 5-38.運転免許証の返納後に受けたい特典(複数回答)

3-3 コミュニティバス

- コミュニティバスについては、便数の増加に対する要望・提案が多くあげられています。
- ルミエールを拠点とした路線網の見直しや、寒田地区までの延伸、集落内での運行、新庁舎整備にあわせたルート見直しなどルートに関する意見も寄せられています。
- また、商業事業者に運行経費の一部負担を求める意見や、バスが身近な交通機関となるような取組も求められています。

【自治会長グループインタビューでの意見】

- コミュニティバスの便数を増やして利便性を確保してほしい。
- コミュニティバスのルート、ルミエールを拠点に見直してみてもどうか。
- ルミエールや行橋のゆめタウンに働きかけ、運行経費の一部負担などの協力をお願いできないか。
- 町役場の新庁舎整備を考慮して、コミュニティバスのルートを見直してほしい。
- コミュニティバスは県道などの幹線道路だけでなく、地区内も走ってほしい。
- 隣接市町村と広域でコミュニティバスを運行できないか。

【住民アンケートでの意見】

- コミュニティバスのルミエールまでの延伸。
- コミュニティバスの寒田への延伸。

【高校生アンケートでの意見】

- バスの本数を増やす。
- バスが身近な交通機関になるようにしてほしい。

【事業者アンケートでの意見】

- 寒田線で、片山医院に通院する利用者が多い。
- 通院目的でのタクシー利用が多いと感じる。

3-4 鉄道

- 鉄道については、本数を増やしてほしいという意見が多く、実際に利用している高校生からは、朝夕の車両を増やしてほしいという意見も寄せられています。
- 鉄道を利用しやすくするために、駅での無料駐車場及び送迎用スペースの整備や、エレベータの設置、椎田駅の裏口の整備などの意見が寄せられています。

【自治会長グループインタビューでの意見】

- 鉄道の本数を増やしてほしい。

【高校生アンケートでの意見】

- 1時間に1本の鉄道を増便してほしい。
- 朝・夕は電車の車両を増やしてほしい。
- 快速が停まるようにする。
- 椎田駅のトイレ整備

【住民アンケートでの意見】

- 鉄道の増便
- 椎田駅に無料駐車場や送迎用のスペースの整備。
- 新田原駅止まりの電車の築城・椎田駅までの延伸。
- 築城駅でのエレベータ設置。
- 椎田駅の裏口の整備(築上西高校生の登下校が楽になる)。

3-5 タクシー等

- タクシーについては、乗合タクシーの導入や、高齢者向けの格安タクシーの導入といった意見が寄せられています。
- また、タクシー以外には、地域にボランティアで買い物などの外出支援の実施や、食料品の移動販売に参入しやすい仕組みづくりといった提案もなされています。

【自治会長グループインタビューでの意見】

- 乗合タクシーの導入を検討してほしい。
- 地域のボランティアで買い物などの外出支援をできないかと考えている。
- 町外からの観光客を公共交通の利用者として取り込めないか。

【住民アンケートでの意見】

- 高齢者向けの格安タクシーの導入
- 食料品の移動販売に参入しやすい仕組みづくり。

4 移動実態・ニーズのまとめ

1～3より築上町における移動実態・ニーズは下記のように整理されます。

表 5-3.移動実態・ニーズのまとめ

項目	内容
移動実態	<ul style="list-style-type: none"> ●通勤は、町内の他、行橋市、北九州市への通勤が多く、9割近くが「クルマ（運転）」となっている。 ●通学手段は学校により違いが大きく、青豊、京都、苅田工業高校はほぼ「鉄道」利用、育徳館高校は3/4が「送迎」、地元の築上西は、「自転車」が4割、「徒歩」が3割となっている。 ●多くの方が町内の「ルミエール」で買い物をしており、市外では「ゆめタウン」がある行橋市への買い物が多くなっている。 ●買い物時の交通手段は、「クルマ（運転）」が約8割を占めている。 ●通院先は、町内の「古賀整形外科」や「うえだ内科クリニック」、「宮部病院」、「あないクリニック」などの病院の他、町内で対応が難しい場合には、行橋市の「新行橋病院」や「新田原聖母病院」への通院が多くなっている。 ●通院時の交通手段は通勤、買い物に比べて「クルマ（運転）」の割合が6割とやや低く、「クルマ（送迎）」や「タクシー」、「鉄道」などの公共交通の利用割合がやや高くなっている。 ●町内のみを走行する路線バス及びコミュニティバスの利用目的は、「通院」、「買い物」が多く、過半数が町内での外出目的で利用している。 ●路線により利用頻度や利用目的、外出先に大きな違いがみられる。 ●10代、70代以上は送迎してもらっている方が多く、送迎してくれる方の9割は「家族」となっている。 ●駅までの送迎先としては「築城駅」、「椎田駅」の順が多くなっている。
公共交通の評価・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ●築上町の公共交通全体に関する評価は、満足と感じている方がわずか7%、満足度は5点満点で2.6点と低い。 ●交通弱者の33%は移動手段がないために外出をあきらめている状況があり、家族が休みの日でないと外出できないといった実態がある。 ●コミュニティバスは、運行頻度、運行時間帯の評価が低く、高齢者はバス停までの移動が大変、寒田地区はバスの運賃負担が大きい、といった問題指摘もなされている。 ●鉄道は、運行頻度、運行時間帯の評価が低く、鉄道が減便により不便になっている、駅の階段が昇れないため高齢者は鉄道が利用できない、といった問題指摘がある。 ●タクシーは、特に夜につかまえにくくなっているという指摘がある。 ●将来に対しては、「クルマを運転できなくなり、外出が不便になる」ことに56%の方が不安を感じており、自治会長のグループインタビューでも同様の意見があげられている。
公共交通への要望等	<ul style="list-style-type: none"> ●65歳以上の方のうち4割以上の方は、「タクシー」、「コミュニティバス」、「クルマ（送迎）」の利用が将来増えると感じている。 ●免許証返納については全体の38%、65～74歳に限ると49%の方が返納を検討しており、返納のための条件として、コミュニティバスの充実が求められている。 ●コミュニティバスについては、増便の他、ルミエールを拠点としたルートの見直し、寒田までの延伸、集落内の運行、新庁舎整備にあわせたルートの見直しなどの意見があげられている。 ●鉄道については、便数の増加の他、朝・夕の車両の増加、駅での無料駐車場や送迎スペース、エレベータの整備などの意見があげられている。 ●乗合タクシーの導入や、高齢者向けの格安タクシーの導入の他、地域のボランティアによる買い物支援、移動販売の参入促進などの提案も寄せられている。